

分析化学誌をぜひご活用ください



水口 仁志

日本分析化学会の設立とともに1952年に創刊された「分析化学」は、今年、第72巻を発刊しております。今日では、研究成果を日本語で公表できる大変貴重な学術論文誌のひとつとなりましたが、会員の皆様にはぜひ本誌を有効にご活用いただきたく、編集の立場から近況をご報告いたします。

本誌は現在年8回発行しております。3号と9号は研究懇談会特集、6号は編集委員会特集、12号は分析化学討論会特集としているほか、1/2号、4/5号、7/8号、10/11号はいずれも合併号として、上記特集以外の、主に一般投稿論文を掲載しております。論文種目には、「報文」「技術論文」「ノート」「アナリティカルレポート」「速報」「総合論文」などがあります。このうち「総合論文」は、これまで公表した数編の成果を和文でまとめた内容であり、ご自身の研究を幅広い読者に向けて解説するにはとても便利です。重要なキーワードをネットで検索すると本誌の記事が高い確率でヒットすることを考えれば、強くお勧めできるカテゴリーです。一方、若手研究者初論文特集は今年で22回目となります。現在は通年で募集しており、他の特集との兼用も可能で、毎年多くのご投稿をいただいております。昨年は、若手論文として15編が掲載されました。このうち2編が編集委員会での厳正な審査を経て「若手論文賞」に選出されました。また、企業あるいは公設試験研究機関に所属される方が筆頭著者あるいは連絡代表者である論文を対象として「分析化学産業技術論文賞」も設定されております。2022年は1編が選出されました。「分析化学論文賞」は、その年に掲載された論文（総説や総合論文等を除く）を対象として、数編がその候補として編集委員会によって推薦されたのち、本会理事等で構成される論文賞選考委員会での議論を経て、1ないし2編（規程上）が選出されます。最近、年会の授賞式にて賞状が授与されております。

本誌は2018年よりWEB上で投稿できるようになりました。昨年より ScholarOne を導入し運用しております。ご投稿の際に本誌HPで公開している無料版のテンプレートを利用いただくと組版料金が節約できます。また、本誌では、経験豊富なインストラクターが内容等について助言する「論文作成支援サービス」を提供しております。最近はこのサービスへの問合せが増えたように感じておりますが、論文投稿においてお悩みがあればぜひご相談いただければと存じます。本誌HPではアクセスランキングを掲載しております。同一IPからのアクセス等を考慮した独自集計の結果を、月間と年間に分けてお知らせしておりますが、どのような論文が長く読まれ続けているのか、大変興味深いデータです。

今年は久本秀明先生を編集委員長としてお迎えしました。引き続き権威ある学術論文誌としてあり続けるとともに、会員の皆様がさらに有効に活用できる媒体を目指してまいります。多くのご投稿をお待ちしております。

〔Hitoshi Mizuguchi, 徳島大学, 「分析化学」編集理事〕